

Go Big or Go Home

海外チャレンジ支援 第一期生
齊藤 かれん

About me

- 幼少期を海外で過ごす
- 国際化される世の中の良さを体感
 - ✓ 価値観、視野
 - ✓ つながり
 - ✓ 日本文化の広まり

留学のきっかけ

- 大学2年の頃、留学をするか迷っていた時期
- 将来を考え始める時期
- 今しかできないことをしたい

壁となったもの

- 親
- 費用

2016年



- BREXIT
→ EU離脱



- アメリカ大統領選
→ アメリカを取り戻す

グローバル化が進み、世界が狭くなっている中、それに反発している動きが現れるようになった。

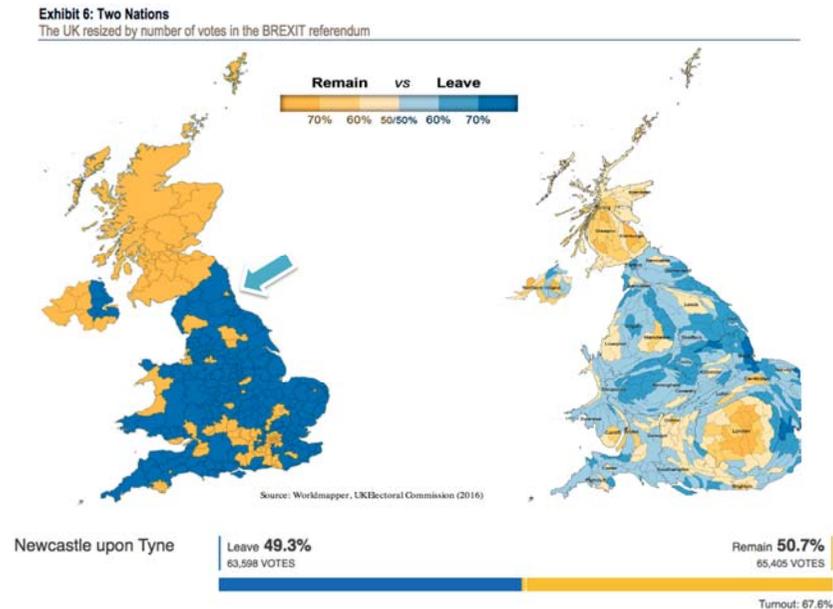
なぜ人々はBREXITを選んだのか？

Go Big or Go Home

- やるなら思いっきりやるという意味
→留学をするなら最大限に活用しようという意気込み
- Go big = go global
Go home = stay conservative

なぜニューカッスル？

- 国際的な場所は比較的にBREXIT反対が多い
- 賛成派と反対派がほぼ同じ割合で存在するから、両者の意見が聞ける
- イギリスで最も良い都市として選ばれたことがある



方法

アンケート調査を通して現地の人の意見を知る。

1. BREXITについてどう思うか
2. なぜそう思うのか
3. 周りの人も同じ意見なのか

→ 実際はアンケートだと本音を言っていない方もいたので、会話を通して聞き出すようにした

仮説

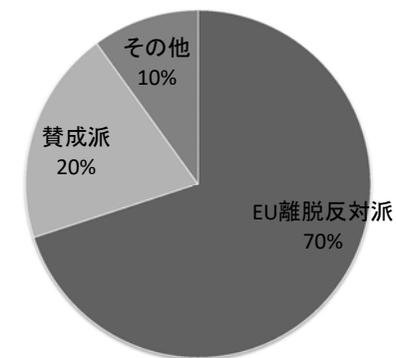
1. 60代以上には賛成派が多い
2. 人種によって賛成、反対が分かれる

調査場所

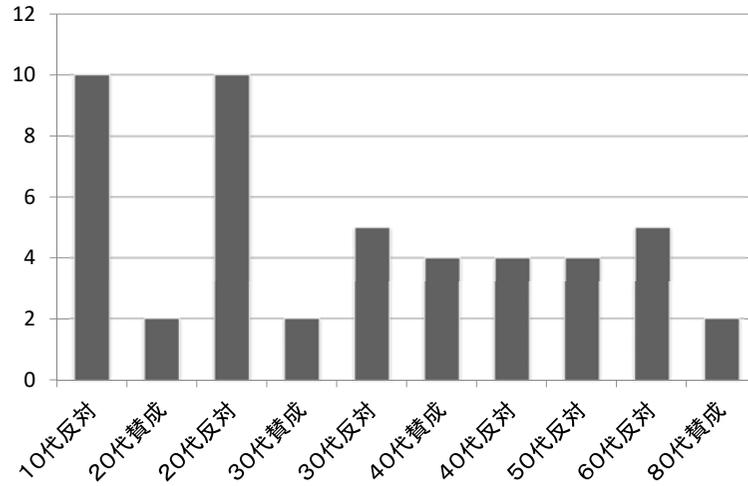
- マーケット
 - カフェ
 - 大学内
 - 寮内
- 職業、年齢を絞らずに行った

結果

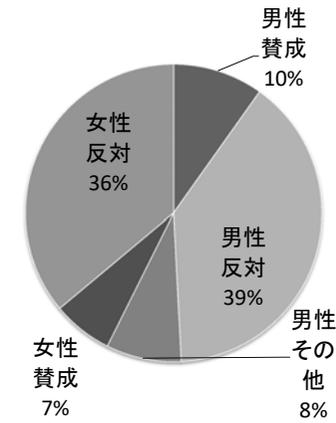
50人に調査をした結果



年代別



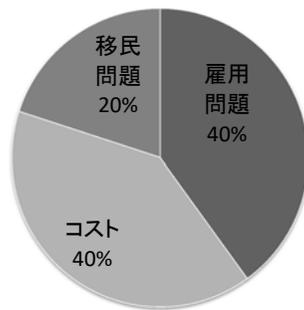
男女比



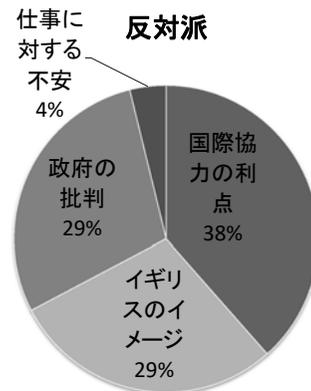
仮説との比較

- 年齢が上になるにつれて賛成派が多かった
- 人種よりも本人の状況によって賛否が分かれる

賛成派



反対派



投票結果と調査結果の差

考えられる原因

1. 調査場所
2. インタビュー形式
3. 年齢層

反対派

- EUはイギリスを国際的に豊かな国にする(全世代・男女問わず)
- 対立ではなく、協力を選んだ方が良い(全体的・職業問わず)
- 離脱に対する計画が曖昧すぎて反対(50代・男性・ビジネスマン)
- EUによって自分もイギリスに住めるようになった(40代・男性・タクシー運転手)
- 最初は賛成していたけど、離脱に対して無計画だから今は反対派になった(20代・男性・タクシー運転手)
- 旅行が好きだから国際的な国の方が良い(30代・女性・受付)

賛成派

- 家族をサポートしなければならないのに移民によって仕事を奪われる(40代・男性・タクシー運転手)
- イギリスはEUに従わずに自分らでルールを作った方がいい(30代・男性・タクシー運転手)
- 戦争を経験しているからこそ、他国と協力したくない(80代・男性)
- 独立してヨーロッパを引っ張る立場になればいい(20代・男性・学生)

その他

- 自分に影響がなければどうでもいい(20代・男性・学生)
- アメリカに飛び立つから、どうでもいい(30代・男性・タクシー運転手)

国際問題に関して

- 移民に対する不安は両者にあり
- ニューカッスルは経済の中心であるロンドンよりも北に存在

仕事に対する執着心の違い



クリーナー

- 子供の将来を考えると、EUはたくさんの可能性をもたらすから



タクシー運転手

- 家族の大黒柱だから、仕事を奪われると家族をサポートできない

SNSの普及

- 友人や家族は同じ意見であることが多い
- SNSは本人がフォローしているアカウントや友人は似ている場合が多い
- SNSは自分の好みに合わせた内容を提示する
- 本人と反対の意見に触れる機会が少ないから、判断を疑う機会が少ない



留学の成果

- 国際化、職業に対する視野を広げる
 - 様々な生き方を知る
 - 情報の扱い方
 - 「自分」について考える
 - 改めて日本の良さを知る
- チャレンジ支援があったからこそ
- 現地で過ごしやすい
 - 目標を持った留学

この留学が実り多いものとなったことについて財団の 皆様のご支援に感謝します。
ありがとうございました。

海外チャレンジ支援

角田絵理

留学の動機

- 日本とは異なる文化に対する興味
- 日本の魅力を世界に伝えたいという気持ち
- スペイン人の友人の存在
- グローバルな感覚を培うため

留学計画のテーマ

自由の国アメリカに おける人種差別

～知ること、知ってもらうこと～

このテーマを選んだ理由

- 自由の国アメリカにおける「人種差別」
↓なぜ差別は起こるのか…
- 異なる人種間での理解度の低さ
↓この問題を解決に近づけるためには…
- 知ること、知ってもらうことの重要性
- 日本にも差別意識はある

アメリカに対する印象

*イメージ

- なんだかんだ差別ありそう
- 日本人(アジア人)は孤立しそう
- 映画『ハイスクールミュージカル』なんて単なる理想

*実際に行ってみて

- 人種間の理解が進んでいた
- 日本人(アジア人)だからって孤立しない
- 映画もあながち夢物語ではないかも...?

週末などにクラスメートと協力しながら課題をしていた時の様子。



ここで気になるのが...

- 実際に人種差別ってあるの？
- WMUの制度やプログラムって人種差別是正の効果はあるの？
- 外国人と日本人、人種差別に対する意識に差はあるの？

実際に現地で実施したこと

- アンケート調査
- 学生に対するインタビュー

調査結果

- 実際には、「人種差別」を感じている学生が多い
- 9割近い学生が、WMUのプログラムによる人種差別の是正効果を実感
- 人種差別に対する意識には、日本人と外国人で差がある
- 人によっては日本でも人種差別をされた経験がある

調査結果から考えたこと

無自覚な差別の存在



差別に関わる全ての人に対する理解

今後について

- 入社後、仕事で活かす
- 留学していたからこそわかる日本の魅力を伝えたい
- 人種差別撲滅に少しでも貢献したい
- この留学で得た成果を周囲の人や後輩たちに伝えていきたい

最後に。

小山台財団の皆様、
ご支援して下さいました皆様、
本当にありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました。

留学テーマに関する報告

留学先：イギリス、ヨーク
東洋大学文学部英語コミュニケーション学科 松尾紗也香

留学先について



留学の動機

- いつか英語を生かすことができる仕事をしたい
- 高校の進路講演会をきっかけに言語学に興味を持つ
→大学に入学するも、真剣に勉強している人は少ない
→海外の大学では学生はどのくらい熱意をもって勉強しているのか
→自分も違う環境で言語学を学ぶことで刺激を受けたい
- 留学で学んだことから自分の将来への考えの幅を広げたい

研究テーマ：言語学を生かした仕事とは？

- どんな仕事がそれにあてはまるのかよく知らない
- 留学を通して言語学が生かされた仕事はどんなものがあるのか
- 世界で言語学の分野がどれくらい必要とされているのか
- 自分の将来に何か良い影響を与えられる留学にしたい！

実施内容

- 留学前と留学中の自分自身の会話における英語力をグラフ化&比較
- 留学をすることによる効果を言語学の側面から説明したい
- 実験を通して言語学が生かせる仕事がある何かを探る
- 留学を考えている人たちにこのレポートから、
留学の語学面のメリットを発信する、留学に行きたいという人を増やす

実験の過程

- ① データ採取の条件を一定にする
- ② データの採取
- ③ 4つの観点で分析
- ④ グラフ化
- ⑤ 比較と考察

① データ採取の条件を一定にする

留学前

- 地域：日本
- 使用言語：日本語（主要）、英語
- 実験期間：6か月

留学中

- 地域：英国
- 使用言語：英語（主要）、日本語
- 実験期間：9か月

留学前

- データ採取場所：
「通訳練習」の授業
English Communication Zone
- データ採取回数：
各場所で週1回ずつ
- 一日の勉強時間（授業外）：
2時間（リーディングとライティング重視）

留学中

- データ採取場所：
「Introduction to English Language and Linguistics」「Psycholinguistics」の授業
Japanese Society
- データ採取回数：
各場所で週1回ずつ
- 一日の勉強時間（授業外）：
2時間（リーディングとライティング重視）

② データの採取

留学前

- データ採取総時間：3000分
- データ数：28
- データ採取方法：ボイスレコーダー

留学中

- データ採取総時間数：3840分
- データ数：44
- データ採取方法：ボイスレコーダー

③ 4つの観点で分析

どのような単語、
表現が使われたか

何回つまずき（会
話が途中止まった
こと）があったか

単語数

次の応答の第一声
目を出すまでにか
かった時間

④ グラフ化

- A.どのような単語、表現が使われたか
- B.単語数
- C.何回つまずき（会話が途中止まったこと）があったか
- D.次の応答の第一声目を出すまでにかかった時間

A.どのような単語、表現が使われたか

留学前

単語、表現と意味	違い
① How are you? 意味：元気？	アメリカ英語
② ~, isn't it? 意味：～ですよ ね？	文法的表現（正確 にはこちらの表現 のほうが硬め）

留学中

単語、表現と意味	違い
Are you alright? 意味：元気？	イギリス英語
~ innit? 意味：～ですよ ね？	口語的表現（こち らのほうが柔らか い言い方）

③It's going to ~ 意味：～でしょう	省略しない形、文法的表現
------------------------------	--------------

④You're welcome. 意味：どういたしまして	文法的表現
---------------------------------	-------

⑤Really 意味：本当に	文法的表現
-------------------	-------

It's gonna ~ 意味：～でしょう	省略された形、口語的表現
--------------------------	--------------

No worries. 意味：大丈夫ですよ（どういたしましてという意味で使用される）	口語的表現
---	-------

Literally 本当に（「マジで」に近い意味）	口語的表現
------------------------------	-------

⑥ What are you doing? 意味：何しているの？	文法的表現
-------------------------------------	-------

⑦Thank you. 意味：ありがとう	アメリカ英語
-------------------------	--------

⑧Vacation 意味：休暇	アメリカ英語
--------------------	--------

⑨Could you help me? 意味：手伝ってもらえますか？	文法的表現
---------------------------------------	-------

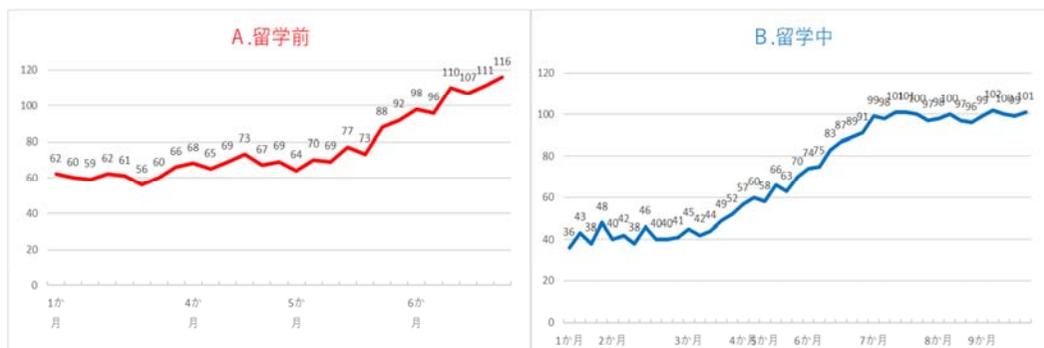
What are you up to? 意味：何しているの？	口語的表現
-----------------------------------	-------

Cheers. 意味：ありがとう	イギリス英語
---------------------	--------

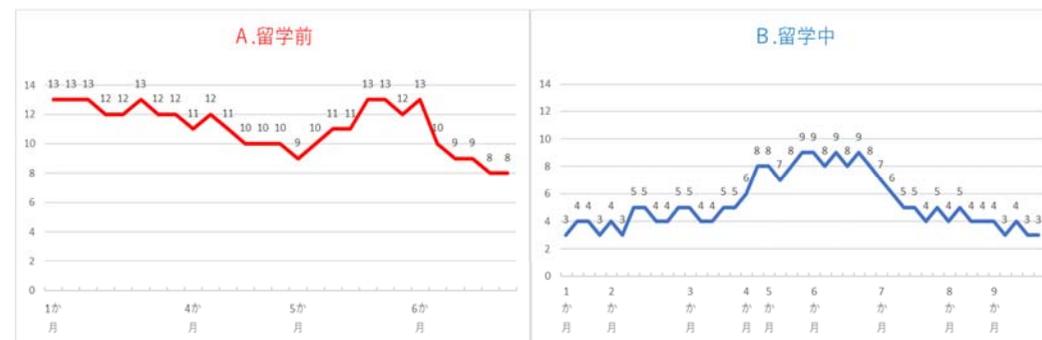
Holiday 意味：休暇	イギリス英語
------------------	--------

Do you want to ~? 意味：手伝ってもらえますか？	口語的表現
-------------------------------------	-------

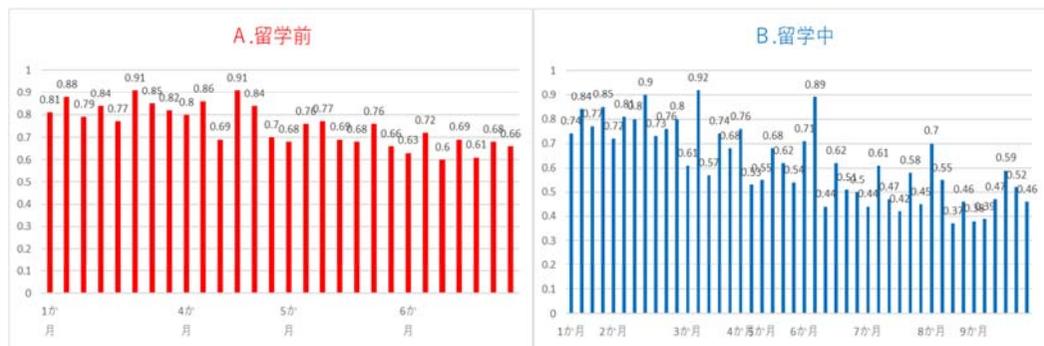
B. 単語数



C. 何回つまずき（会話が途中止まったこと）があったか



D. 次の応答の第一声目を出すまでにかかった平均時間



⑤ 比較と考察

留学前

- ・会話表現が文法的
→教科書で習った通りの表現を使用
(ネイティブスピーカーが実際に使用する表現を知らない) ?
- ・アメリカ英語的な表現が多い
→日本ではアメリカ英語を学ぶから ?

留学中

- ・会話表現が文法的な表現から口語的に変遷してきている
→周囲にいる人の話し方に影響を受けている ?
- ・イギリス英語的な表現を複数使用
→周囲の人との会話から言葉遣いを学ぶ、そして真似る ?

・単語数は時間の経過とともに増加
→授業で習った語彙の活用 ?

・単語数は時間の経過とともに増加、途中からほぼ一定になる
→留学先で会話から得た単語知識の活用、さらに今までインプットされた単語のうち、親密度の高いものだけを脳が抽出しているため ?

・単語数は留学中より多い
→インプットする時間が留学中より多いため (授業内で英語自体について習うことが多々ある)、しかし言いたいことに対して適切な語彙でない場合もあり ?

・単語数は留学前より少ない
→インプットする時間が留学前より少ないため (授業内で英語自体を勉強することはない) ?

・つまずき回数は時間の経過とともに減少
→日常的なアウトプットの量が違うため ?

・つまずき回数は時間の経過とともに減少
→日常的なアウトプットの量が多いため ?

・減少前も減少後も回数は留学中より多い
→日常的なアウトプットの量が違うため ?

・最初は留学前より少し少ない程度、減少の割合は留学前よりも大きい
→日常的なアウトプットの量が違うため ?

- ・ 1～5か月目にかけてつまずき回数は減少するが5か月目～6か月目にかけていったん回数が増えそしてまた減少する
- 単語数の増加によって単語自体への親密度が関係する？

- ・ 1～3か月目まではつまずき回数が少ない（1単語のみを使用した会話が多いため）が3か月後から増えて7か月目を過ぎる頃に減少する
- 7か月後のつまずき回数の減少は単語数が一定になり始めた時期と被るため関係性がある？一定の単語への親密度が関係？

- ・ 応答までにかかる時間は長い
- 理解力、脳の処理機能のスピード、会話の慣れ具合、母語との結びつきやすさ、相手から発せられる単語や表現への親密度が関係している？
- ・ 応答にかかるまでの時間の総数の平均は0.75秒（留学中より長い）
- アウトプット量の違い？

- ・ 応答にかかるまでの時間は長い時と短い時とばらつきがある
- 理解力、脳の処理機能のスピード、会話の慣れ具合、母語との結びつきやすさ、特に時間にばらつきがあるのは相手から発せられる単語や表現への親密度が関係している（親密度が低ければ脳の処理スピードも遅い）？
- ・ 応答にかかるまでの時間の総数の平均は0.62秒（留学前より短い）
- アウトプット量の違い？

実験結果・留学テーマの結果

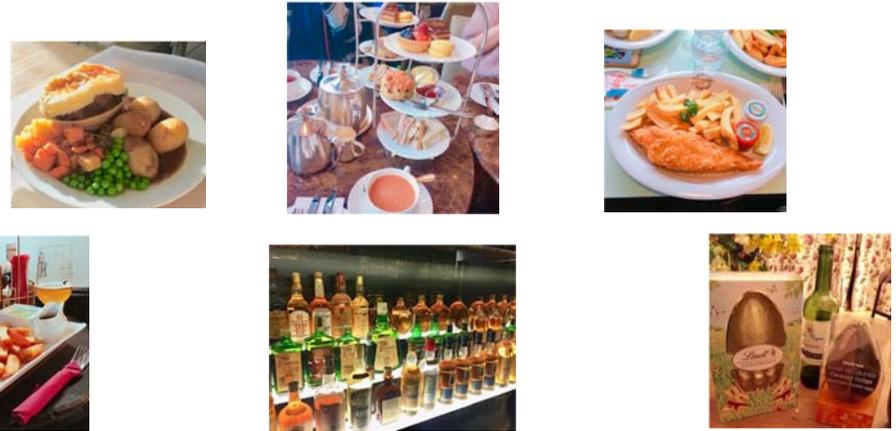
できたこと

- ・ データ採取、分析、比較を通して自身の第二言語習得の過程を見ること
- ・ 予想通りの習得過程グラフが出来上がったこと
- ・ 非英語圏で英語を学ぶことと英語圏で学ぶことの差を見ること

できなかったこと

- ・ データ結果における言語学的な側面からの証明
- ・ 実験に対する準備

留学を終えて…



まとめ

小山台教育財団の皆様、
留学をご支援いただきありがとうございました！！



ラテンアメリカ社会に於ける サッカーの役割と日本社会との比較

-チリ共和国の事例を中心に-

上智大学外国語学部イスパニア語学科ラテンアメリカ研究コース3年
上田 康大



なんでスペイン語？ なんでチリ？

- ① 高校1,2年生次の英国交換派遣
→ 海外での生活は自己成長に繋がる
- ② 英語以外への言語の習得
→ 将来性の高いスペイン語（ポルトガル語）
- ③ ラテンアメリカへの憧憬
→ 本場のサッカー文化の体感
- ④ 治安の問題+レベルの高い環境
→ 南米有数の治安の良い国+留学先が中南米トップの大学



ISLA DE PASCUA (イースター島)



VALPARAÍSO (バルパライソ)



DESIERTO DE ATACAMA (アタカマ砂漠)



PATAGONIA (パタゴニア)



SANTIAGO (サンティアゴ)



ラテンアメリカに社会に於けるサッカーの役割と 日本社会との比較

- なぜラテンアメリカ(チリ)においてサッカーは人気なのか。
- どのようにすればJリーグの人気は上がるのか。

社会とサッカー

チリ

- サッカーへの興味関心が高い
- サッカーと社会階層が結びつく
- 階層のシンボル

日本

- サッカーへの興味関心が野球に比べて
 高い
- サッカーと地域社会が結びつく
- 地域のシンボル

サッカー人気の比較

	日本	チリ
総人口 (2017)	126,785,000	18,054,000
サッカー競技人口 (2017)	915,306	n.a.
サッカー競技人口比率 (日:2017 智:2015)	0.7%	13%
サッカーに対する関心 (2015)	n.a.	45%
サッカーが好き (2018)	24.8%	n.a.

Campeonato Nacional (チリ・サッカーリーグ)

設立:1933年

チーム数:44(1-3部)



チリの社会階層分類

	月収(CLP)	月収(JPY)
AB (上級)	\$4,386,000	¥727,370
C1a (中上級A)	\$2,070,000	¥343,287
C1b (中上級B)	\$1,374,000	¥227,863
C2 (中級)	\$810,000	¥134,329
C3 (中下級)	\$503,000	¥83,417
D (下級)	\$307,000	¥50,912
E (最下級)	\$158,000	¥26,202

1 CLP=0,17 JPY

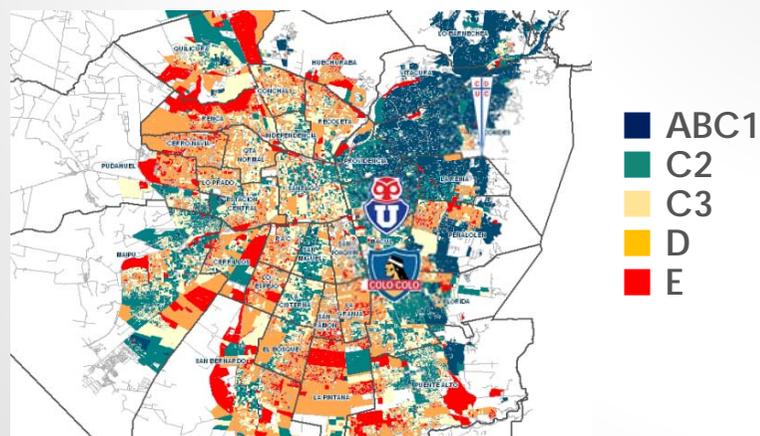


チリリーグと社会階層

	Colo-Colo (コロコロ)	Universidad de Chile (ウニベルシダ・デ・チレ)	Universidad Católica (ウニベルシダ・カトリカ)
			
支持率	44.8%	25.7%	6.6%
首都州居住率	59%	55%	40%
ABC1	6%	11%	23%
C2	18%	25%	23%
C3	27%	31%	31%
D	50%	34%	24%



サンティアゴ市内社会階層分布図



SAN CARLOS DE APOQUINDO (ウニベルシダ・カトリカ本拠地)

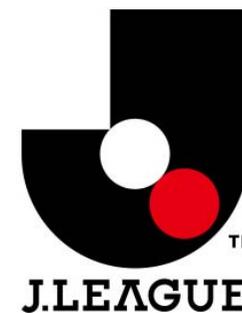


	チリ大学	カトリカ大学
		
設立	1842	1888
形態	国立	私立
ラ米内ランキング	7	1
傾向	リベラル	保守
社会階層	幅広い	上級

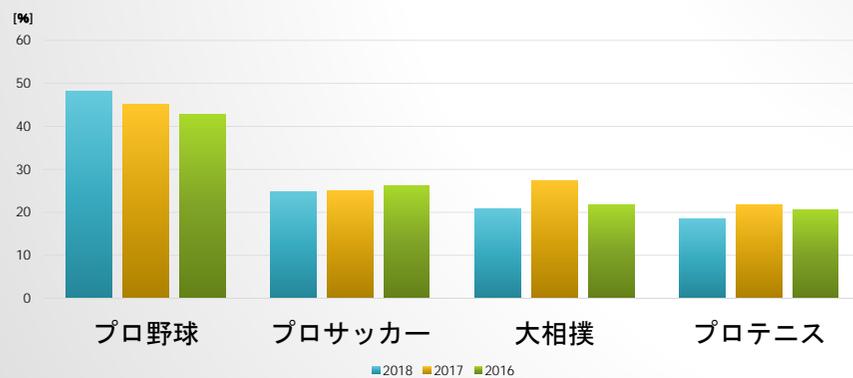
Jリーグ

設立:1993年

チーム数:54(1-3部)



日本のスポーツ人気度調査(2016-2018)



Jリーグと地域社会

	浦和レッズ	鹿島アントラーズ	ガンバ大阪	名古屋グランパス	川崎フロンターレ
					
支持率	11,8%	11,6%	9,2%	8,3%	7,1%
都道府県居住率	75,3%	54,6%	61,8%	82,9%	69,0%

85%以上のJリーグサポーターが好きなチームのある都道府県に住んでいる



Jリーグ百年構想



- ・ 81.1%のサポーターがJリーグクラブがホームタウンに貢献していると回答
- ・ 84.4%のサポーターがJリーグクラブがホームタウンにとって重要だと回答



百年構想(FC東京)



百年構想(FC東京)



百年構想(FC東京)



まとめ

・チリリーグ

- ①チームは社会階層と結びつく傾向にあり、それがサッカーへの人気の高さに。
- ②熾烈さゆえに、ピッチの外での問題も度々起こる。

・Jリーグ

- ①百年構想の下、チームは地域に根差して活動している。(地域密着)
- ②サポーターがサッカーに対して健全に向き合っている傾向。
- ③まだ歴史が浅いため、「Jリーグらしく」歴史を紡いでいくことが大切。

最後に

- ・ 支援していただいた財団関係者の方々ありがとうございました！

参考文献

- ・ 24 Horas. (15 de mayo de 2018). *Las disculpas de la U tras burlas a Raimundo Tupper en el Clásico Universitario*. Retrieved Dec 15, 2018 from <https://www.24horas.cl/deportes/futbol-nacional/las-disculpas-de-la-u-tras-lo-sucedido-en-el-clasico-universitario-2713426>
- ・ Adimark. (n.d.). *Mapa Socioeconómico de Chile*. Retrieved Dec 07, 2018, from http://www.adimark.cl/medios/estudios/informe_mapa_socioeconomico_de_chile.pdf
- ・ Emol. (2 de abril de 2016). Infografía: Cómo se clasifican los nuevos grupos socioeconómicos en Chile. Retrieved Dec 15, 2018 from <https://www.emol.com/noticias/Economia/2016/04/02/796036/Como-se-clasifican-los-grupos-socioeconomicos-en-Chile.html>
- ・ Chuo Chosasha. (2018). *Investigación de Deportes Populares*. Retrieved Dec 07, 2018, from <http://www.crs.or.jp/data/pdf/sports18.pdf>
- ・ GfK Adimark. (2015). *Encuesta GfK Adimark del Fútbol Chileno 2015*. Retrieved Dec 07, 2018, from <https://docs.google.com/viewerng/viewer?url=http://www.adnradio.cl/docs/20151002923e2778.pdf>
- ・ Japan Football Association. Retrieved Dec 07, 2018, from <http://www.jfa.jp>
- ・ J.League. (2018). *J.LEAGUE™ FUN SURVEY 2017*. Retrieved Dec 07, 2018, from <https://www.jleague.jp/docs/about/jfunsurvey-2017.pdf>
- ・ QS Latin America University Rankings 2019. Retrieved Dec 15, 2018 from <https://www.topuniversities.com/university-rankings/latin-american-university-rankings/2019>
- ・ World Bank. Retrieved Dec 07, 2018, from <https://www.worldbank.org/>